市町村名	本部町

平成２５年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-①	もとぶのマーサムン･ミジラシムンづくり支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ 県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
担当部課名	商工観光課	事業実施（予定）年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-2
事業内容	本部町の特産品を開発するため、本部町内の企業等に開発を委託し、より多くの特産品をつくりあげる。また、開発した特産品を紹介し、開発後の販売促進、町のPRを行う。なお、開発した特産品については、その製法･仕様を本部町内の企業等に無償で提供する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	―	19,281			
	(b) 予算現額	―	19,290			
	(c) 増減額 (b-a)	―	9			
	(d) 前年度繰越額	―	―			
	A. 計 (b+d)	―	19,290			
B. 執行済額		―	15,434			
うち交付金充当額		―	12,347			
次年度繰越額		―	0			
執行率（%）(B/A)		―	80.0%			
予算の状況の説明	当初の積算額より低い金額で発注できたため不用額が生じたが、事業は計画通り遂行できた。					

活動目標（指標）及び達成状況

H25活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度 3-①	27年度	28年度
特産品の開発	目　標	（　5品　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	9品			
開発した特産品の広告･宣伝	目　標	（　パンフレット作成　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	パンフレット作成 20，000部			

達成状況説明

・町内の5事業所へ特産品開発の委託を行い、「アセローラ」、「たんかん」、「かつおのなまりぶし」、「ヤギ」、「桜の木」を活用した本町の新たな特産品を9品開発した。

・開発した特産品及び本町のPRをすることのできるパンフレットを20，000部作成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H25成果目標（指標）		基準値（24年度）	25年度	26年度 3-①	27年度	目標値（28年度）
特産品の開発	目　標	（　0品　）	（　5品　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		9品			
開発した特産品の広告･宣伝	目　標	（　　）	（パンフレット作成）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		パンフレット作成 20，000部			
【参考指標】 開発した特産品の販売額（千円）	目　標	（　　）	（　　）	（　4,709　）	（　6,278　）	（　7,848　）
	実　績		－	1,602	3,118	2,539

進捗状況説明

平成25年度においては、「タンカンアンダギー」、「ドライアセロラ」、「アセロラコンポート」、「アセロラまるごとティー」、「アセロラジャム」、「ハイサイ！かつお君（2種）」、「kizamiピクルス（5種）」、「もとぶの山羊（2種）」、「桜の木スプーン･フォーク（3種）」を開発した。開発した特産品は、各開発者において町内外の特産品を取り扱う店舗や物産展等で販売を展開している。また、町内の特産品販売事業者と連携し、当事業の特設コーナーの設置や、メディアでの記者会見発表を行い商品及び町の魅力を発信する機会を設けた。その後、県内外での本部町関連イベント時には作成したパンフレットを配布しており、継続的にPR活動を行っている。原料の高騰による商品価格の見直しや、原料の供給が不安定である等の理由から平成28年度の販売目標に届かなかった一面もあるが、今後とも事業所間及び町も連携して販売戦略を確立し、町のおいしいもの･珍しい物を発信していく。

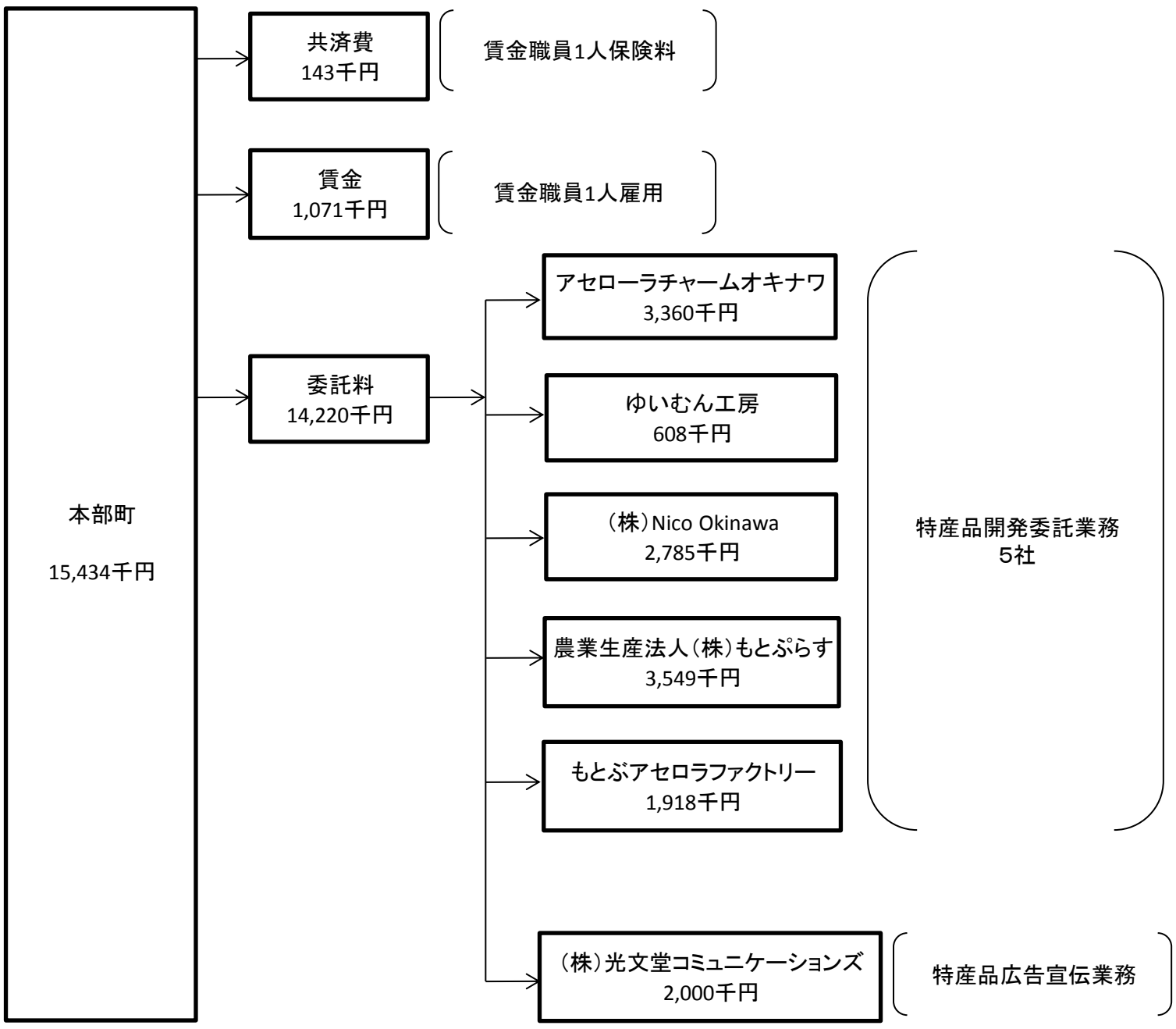
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・事業所においては小規模事業者もおり、供給体制が弱いといった課題もある。当事業で開発された商品をひとまとめにPRできるよう事業者間での連携が必要である。 ・また、ハンドメイドであることや、町産の原料を使用していること等から少量生産になりがちな商品もある。このことを逆に強みとして、高品質な商品として位置づけ、利益率をあげる工夫が必要である。	・町主催のイベントなど、町内外へのPRを行う際には、当事業で作成したパンフレットを積極的に活用し、町の魅力を外へと広げていく。 ・販売戦略とともに、町産原材料の確保について、町内各関係団体と連携し、商品開発を継続的に行える体制作りに取り組む必要がある。

今後の取り組み方針

商品開発後、原料価格の変化や供給が不安定であること、また消費者目線に合わせた商品のブラッシュアップが必要である等、課題も見えてきた。今後、これらの視点を踏まえたフォローアップを行い、事業者と連携してよりよい町産品を作り上げていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,434	15,434	12,347	3,087	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により事業内容、地域への貢献度等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○当初の積算よりも安い金額で発注が出来たため残額が発生しているが、予算規模は妥当であった。 ○費目、使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	